土着天敵を保護する露地ネギの栽培体系 (千葉県・静岡県)

《ムギ間作と影響の少ない薬剤の使用で天敵強化》

ポイント

- ▶ ネギ定植前後からムギ類を間作して土着天敵のコモリグモ類やヒメオオメカメムシ等の働きを強化する。
- 殺虫剤の使用は最小限にとどめ、やむを得ず使用する場合は天敵に影響が小さいものを選ぶ。



ウヅキコモリグモと ヒメオオメカメムシ

ウヅキコモリグモとヒメオオメカメムシは地上を徘徊し、ネギアザミウマを始めヨトウ類などの害虫を捕食する重要な土着天敵です。

キイカブリダニ

キイカブリダニはネギアザミウマの成幼虫 を主な餌としています。秋以降になるとネギ 上でよく見られます。

天敵に影響の少ない殺虫剤

生育初期のネギはアザミウマの被害に弱いので、天敵に 影響が小さいかん注剤・粒剤を活用します。その後は、 害虫の発生状況に応じて天敵への影響が小さい散布剤 等を使用するようにします。

ムギ類を間作

畝間にムギ類(オオムギ '百万石'等)を 播種するとコモリグモ類やヒメオオメカメム シ等が定着し、ムギに発生する昆虫を餌と して増殖します。

ムギ間作と減化学農薬を組合せた圃場(植生+減農薬)では、慣行防除と比較して、天敵であるコモリグモ類やヒメオオメカメムシが多く、農薬を削減してもネギアザミウマの被害を慣行と同程度かそれ以下に抑制します。

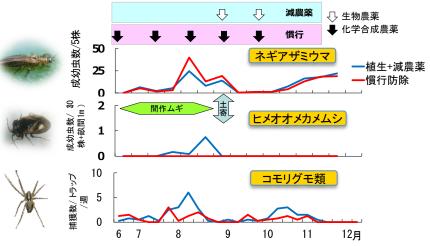


図1. 植生管理と殺虫剤管理の違いがネギアザミウマと土着天敵の発生に及ぼす影響









図2. 間作オオムギの様子(品種'百万石'、6月上旬播種)

表3. 天敵に影響の少ない薬剤を中心とする露地ネギ害虫防除暦の一例

			作業等	薬剤名	処理法	対象害虫・雑草
	5月	下旬	定植	アルバリン/スタークル顆粒水溶剤	苗箱へのかん注	アザミウマ類、ハモグリバエ類 他
				フォース粒剤	作条土壌混和	ネキリムシ類
			大麦は種	ゴーゴーサン乳剤	全面土壌散布	一年生雑草
7		上旬		アファーム乳剤 * 注 1	散布	ネギハモグリバエ、シロイチモジョトウ
	6月	中旬	除草剤	トレファノサイト乳剤	全面土壌散布	一年生雑草
		下旬		プレオフロアブル	散布	ネギアザミウマ、シロイチモジョトウ
	7月	上旬	削り込み			
7		中旬		モスピラン顆粒水溶剤	散布	アザミウマ類
	8月	上旬	削り込み	プレバソンフロアブル 5	散布	ハモグリバエ類、シロイチモジョトウ 他
	9月	上旬	土寄せ開始	プレオフロアブル *注 2	散布	ネギアザミウマ、シロイチモジョトウ
	10月	上旬	土寄せ			
	11月	上旬	土寄せ			
		中旬		スピノエース顆粒水和剤 *注3	散布	アザミウマ類、シロイチモジョトウ
		下旬		コルト顆粒水和剤	散布	ネギアザミウマ
	12月	中旬	収穫開始			

- *注1:アファーム乳剤等、天敵に影響が強いが残効が短い剤は天敵の少ない時期には使用可能
 - 2: キイカブリダニの発生が少ない圃場ではこれ以降も殺虫剤散布を行う
 - 3:キイカブリダニの働きが落ちてくるタイミングで殺虫剤散布に切り替える
- オオムギは雨の続く日の前を選んで歩行型播種機を用いて播種します。十分繁茂するまでは除草剤を用いて雑草を防除します。5月下旬の播種では8月中下旬に、6月下旬の播種では9月中旬に地上部が枯死するので、土寄せ開始日に合わせて播種時期を調整します。
- ▶ 栽培初期の虫害はネギの生育遅延につながるので、影響が大きくなります。 オオムギが十分繁茂して天敵の密度が高まるまでは、化学合成薬剤を用いて ネギアザミウマの初期密度を低く抑えることが大切です。